

横芝の碑

(その八十一)

北清水―栗山―そして橋場の昔を語るか、同じ姿の庚申様

横芝町公民館活動の中で、郷土史研究会という横芝町に伝わる名話、行事、風習等を探り出そうとする集りがあり、現在は栗山川のあれこれについての勉強をしたり話し合ったりしています。私も仲間に入っているいろいろ勉強させて頂いておられます。その話し合いの中にはよく対岸の光町の事が出て来ます。

いつか、騎乗姿の馬頭観音様が栗山から鳥喰を経て北清水に到る昔の道を教えている」とご紹介した時、中学生らしい人から「栗山

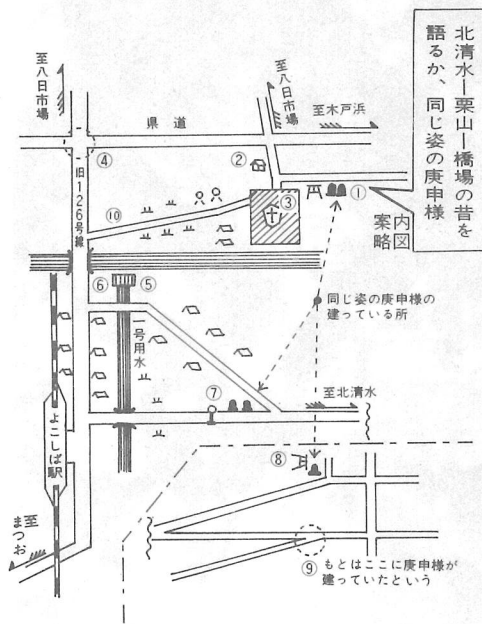


▲ 昔の本通りを伝える橋場の庚申様

までは何処から来ているのか？」という問い合わせがありました。横芝に建っている碑、という気が持が先行したものですから、「今の栗山橋の辺りだと思います」という今考えれば随分不親切な返事をしましたので。ところが、その後、「東陽病院近くの神社に珍しい御手洗(みたらし)がある」という話を耳にしましたので、それを調べに出かけた時、すぐそばの道端に北清水の庚申様(横芝の碑その四十四参照)や栗山の庚申様(同その五十七)にそっくりな

経路伝える三カ所の庚申立像

近所の人の話では、「庚申様は昔からここに建っていて、この道は東陽小学校方面から来て北に曲がり、県道を横断して八日市場方面に通じている一本道になっているが、病院が建つまでは、ここからまっすぐに栗山橋の袂に出る道があった」ということです。栗山橋を渡って光町に入るとすぐ右に入る道がありますが、それに通じている訳です。庚申様の前の道に面



北清水―栗山―橋場の昔を語るか、同じ姿の庚申様

姿をした庚申様が建っていることに気がつきました。それは頭上に蛇の形をした動物らしい姿を頂いているのです。建立の年号も一年だけ異なりますが同じ宝永年間なのです。

しては神社や長屋門を構えた旧家等も建っていますので、その昔は本通りであったものと思われれます。そして栗山橋をこちらに渡って東耕組合事務所の方に曲がり、同じ姿の庚申様が建っている栗山庚申前を経て、いわゆる九里(栗)山路に入る者もあり、荷駄をつけた車馬は鳥喰方面の浜街道に、と向かったのではないのでしょうか。光町の周辺を探訪して見ました(努力と研究不足かも知れませんが)同じ姿の立像は見当りませんでした。たので、北清水および栗山の庚申様に関係が深く、おそらく同じ道路沿いに建てられたものと考えましたので、あえて「横芝の碑」として取り扱いました。

地域が他市町村なので、時間がかかると思いますが、いつかこの道の昔を調べ、電話で問い合わせたいと思います。

写真はその庚申様で、向かって左が北清水や栗山の庚申様と同じように蛇形の姿を頭上に頂いています。側面には、宝永五年(北清水、栗山各々の庚申様は宝永四年)五戌十月吉日、宮川村、と刻まれています。向かって右は普通の姿で、側面には、寛政十二年庚申建立、橋本願主石屋文七、と刻まれました。願主を除いては、栗山の三体の庚申様の一つと全く同じです。(本稿は特に案内略図のご参照をお願いしたいと思います。)

No.	場所	No.	場所
①	横芝の庚申様と同姿の庚申様	⑦	栗山の庚申様
②	光町の長屋門のある旧家	⑧	北清水の庚申様
③	組合立東陽病院	⑨	北清水の交差点
④	光町宮川交差点	⑩	横芝に通ずる昔の道と思われる細道
⑤	東部耕地改良事務所		
⑥	旧栗山橋		

町文化財審議会委員 小沢春光氏寄稿